

資料館だより

2021年 春号

contents

イタイイタイ病資料館活用研修会……………	1
館長あいさつ……………	1
この人にインタビュー……………	2
春の特別企画展……………	2
インフォメーション……………	2

令和2年
12月26日

イタイイタイ病資料館活用研修会を開催!



希望者は展示室を見学

研修会会場 発表を聴く参加者

水上教諭 宮野小学校の事例を紹介

12月26日(土)、イタイイタイ病資料館を小中学校等の授業に活用してもらうための研修会を開催したところ、県内8校から教員10人の参加がありました。

講師の水上颯斗氏(富山市立宮野小学校教諭)には、6年生の総合的な学習時間の実践事例を紹介していただき、イタイイタイ病を題材に調べた成果を劇にして発表したことや熱心に取り組んだ授業内容の報告がありました。

水上義行氏(元富山国際大学子ども育成学部教授)が総括され、「素晴らしい教育実践であり、学習した教訓を後世に残す動きが広がれば」と助言されました。

参加者の声

イタイイタイ病は、これからの子どもたちに考えさせるべき題材であり、最適な学習だと思います。(20歳代)

宮野小学校の取り組みや子どもたちの学びの様子を分かりやすく紹介され、イタイイタイ病資料館の活用例のよいモデルを見せてもらった。(50歳代)

子どもたちは、物事を多様な見方で考えることで悩みに気づき探求していけるものだ、改めて認識できました。(20歳代)

2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会への挑戦に期待する



2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大によるコロナ禍で、社会経済活動が制限され日常が損なわれました。当資料館では一時期臨時休館とし、例年の行事、事業の縮小や中止を余儀なくされました。10月に予定していました「四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～」を残念ながら中止といたしました。現在は感染防止対策をとり、主に小学生の団体や一般の来館を迎えています。来館者は前年度の半数に留まっています。2021年度には例年通りの来館者数を目指し、事業活動を計画していますのでお越しいただきたいと希望します。

今年は災禍の10周年を迎えます。2011年2月22日ニュージーランド南部で地震が発生し、クライストチャーチのビル倒壊で

富山県立イタイイタイ病資料館 館長 飯田 博行

富山外国語専門学校の学生12人が犠牲になりました。同年3月11日には東日本大震災、東京電力福島第一原発事故が発生し、この巨大地震による津波等で2万人を超える死者・行方不明者を出しました。その後地震、豪雨や台風による災害が続いており、今年の冬は雪害もありました。自然災害や公害、その悲惨な被害は決して忘れてはなりません。

1月と2月にNHKスペシャル「2030年が未来への分岐点」が放送され、2050年に向けて今後10年間の地球温暖化対策、脱炭素への挑戦、水の枯渇や食糧不足、プラスチック汚染への対策が重要な課題であることを明らかにしています。持続可能な開発目標(SDGs)にも関連した示唆に富む内容の番組でした。昨年10月、政府は2050年までに二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を実質ゼロにする、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会を目指す」宣言を出しました。将来に向けて大変期待されますが、その具体策と実行が問われると思います。

この人にインタビュー

一般財団法人
神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
代表理事
イタイイタイ病対策協議会 会長

たかぎ くにひろ
高木 勲寛 さん



プロフィール

高木勲寛さんは、2003年に第2代のイタイイタイ病対策協議会会長に就任され、被害地域住民の先頭に立ち、原因企業との「緊張感ある信頼関係」の構築やイタイイタイ病の教訓が後世に継承されるよう尽力されています。

資料館においても語り部として活動され、大学生や企業の方にイタイイタイ病の闘いの歴史やこれまでの経緯全般についてお話しいただいております。

1972年8月のイタイイタイ病裁判勝訴確定から本年度で50年目を迎え、神岡鉱山の立入調査も50回目の年となりますが、今の心境と決意をお聞かせください。

1968年3月8日 日本の大企業・三井金属鉱業(株) (三井金属) を相手にイタイイタイ病裁判を提訴し、1972年8月9日控訴審判決に於いて完全勝訴が確定しました。翌日、三井金属本社での直接交渉により、「患者救済(賠償)」と「土壌汚染問題(復元)」の2つの誓約書、更に立入調査権を有する「公害防止協定書」の3つを締結しました。公害防止協定書による立入調査をすることで20数年前より神通川に清流が甦り、復元事業により美田も甦りました。しかし、上流に神岡鉱山がある限り、下流に位置する富山県は、これを監視することが必要であると考えます。三井金属との「緊張感ある信頼関係」は、被害地域住民の粘り強さと、多くの科学者とイタイイタイ病弁護団の大きな尽力により構築されたものであります。

この関係を永く継続し、神通川の清流を守ることは、富山平野の安心安全に資することと確信し、今回を通過点として活動を続けたいと考えています。

イタイイタイ病資料館は、今年の4月で開館(2012年)から10年目を迎えます。これからの資料館に期待されることなどを聞かせください。

県立イタイイタイ病資料館は、被害団体が惨劇を繰り返さないためにと建設を願い、富山県へ陳情して11年目にオープンを迎えました。被害団体は、三井金属に対し、「県からの要請があれば応分の負担をするように」と交渉し、5億円の寄附となったものです。展示されている「史実」は、被害団体とも協議したのもあり、県の職員による解説は評価できますが、解説の専従員を設けられることを切望します。更に、語り部養成に本腰を入れていただき、今後も風化させないための役割をしっかりと果たされるよう祈念します。併せて、環境先端を目指す県の施策として「SDGs」の学習プログラムをセットされることをお願いいたします。

資料館インフォメーション

春の特別企画展

『報道がとらえたイタイイタイ病』
を開催します！

日時：4月24日(土)～5月5日(水・祝)
場所：イタイイタイ病資料館 <参加費無料>

新聞報道パネル展 4月24日(土)～5月5日(水・祝)
講演会 4月29日(木・祝)

講師：元富山新聞社記者 小川輝久氏

イタイイタイ病取材したジャーナリストから、当時の様子や何を伝えたかったかをお話しいただきます。



令和2年度下半期の行事経過

令和2年

- 12月9日(水) イタイイタイ病資料館運営会議
- 12月15日(火) 語り部 研修視察
- 12月26日(土) イタイイタイ病資料館活用研修会

令和3年度上半期の行事予定

令和3年

- 4月24日(土)～5月5日(水・祝)
春の特別企画展『報道がとらえたイタイイタイ病』
- 6月下旬 語り部・解説ボランティア研修会
- 7月下旬 夏休み自由研究講座
～イタイイタイ病の学習と酸性雨の水質調査～
- 8月上旬 イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー
- 8月下旬 イタイイタイ病資料館活用研修会

※詳細については、資料館ホームページ等でお知らせいたします。

課外学習サポート事業の 利用校募集のお知らせ

令和3年3月25日(木)より募集を開始します!!

新年度も多くの児童・学生にイタイイタイ病について学んでいただくため、学校等に「無料送迎バス」を提供する「課外学習サポート事業(環境省委託)」を実施します。

資料館への送迎は、これまでと同様に、学校や県内施設を起点・終点として実施します。また、近接した「四季防災館」を見学する場合は無料区間が延長され、利用しやすい内容となっています。

利用条件など詳細については、資料館へお問い合わせください。

○メールマガジン登録者募集中

資料館の最新情報などをお伝えするメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は次のメールアドレスあてにメールを送信してください。[mlhope@itaitai-dis.jp]

発行/富山県立イタイイタイ病資料館 〒939-8224 富山県富山市友杉151番地(とやま健康パーク内)

電話▶076-428-0830 FAX▶076-428-0833

(令和3年3月発行)

URL▶<http://www.pref.toyama.jp/branches/1291/>

